JAPRS

JAN .2012 No.2 初夏号

目 次

平成24年JAPRS新年会	1
JAPRS音楽配信関連セミナーレポート	2
2012年JAPRS新プロ・エンジニア研修会レポート	6
専門学校委員会 大阪地区レコーディングセミナー報告	8
会員動向	10

平成24年JAPRS新年会

1月19日 (木)、平成24年JAPRS新年会が開催されました。本年は、昨年に続き元赤坂・明治記念館 1F「末広」に於いて104名の参加者により実施されました。

18:30 運営委員会の茂木副委員長 (個人会員)、江下副委員長 (バーニッシュ) の司会により開宴となり、最初に内沼会長が年頭の挨拶を述べられる。



内沼 会長



続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 文化 情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏が挨拶される。

経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋 氏

続いて乾杯となり、関連団体を代表して一般社団法人日本オーディオ協会会長 校條 亮治 氏により乾杯の発声が行われ、歓談の時間となる。



一般社団法人日本オーディオ協会 校條 亮治 氏



正会員、賛助会員の他にもJAPRSに関連する 10団体からの招待者が加わり、会場の所々で 歓談の輪が出来る。

20:10 中〆の時間となり、オタリテック株式会社・専務取締役 西原 聡氏挨拶の後、20:30 無事に終了することが出来ました。



西原 聡 氏

JAPRS音楽配信関連セミナーレポート

(株)ミキサーズラボ ワーナーミュージック・マスタリング 田中 龍一



清水 三義 技術委員長

2012年2月17日(金)、新宿文化センター 4F第1会議室に於 いて、JAPRS会員27名、関連団体11名の参加により実施された 「JAPRS音楽配信関連セミナー」の概要をレポートします。

<1部>

ビクタースタジオ 鈴木 順三 氏 「配信用音源に関するマスタリング以降

アップロードまでのフローチャート及び留意点 |

- 1)音楽配信が届くまで
- 2) 圧縮方式
- 3) 圧縮による音質の変化
- 4)配信の方式
- 5) 配信作業の流れ
- 6) 配信の今後について
- 7)音楽制作の方向



1)音楽配信が届くまで

現在の音楽配信用ネットワークの種類にはコンテンツサーバからユーザの機器まで 全てインターネット(IP網)を使用する方法と、IP網と携帯用コアネットワークを使 用する方法がある。いずれの場合も音楽ファイルを転送するには非圧縮ではファイル サイズが大きすぎるため圧縮が必要である。またユーザの利用形態によって転送レー ト(圧縮率)を変える必要もある。

2) 圧縮方式

圧縮には可逆圧縮と不可逆圧縮の2種類があり、可逆圧縮のほうが完全に元のデー タに戻るため音質面では有利だが、ネットワーク配信ではファイルサイズを低く抑え る必要があるため、主に不可逆圧縮を採用している。

3) 圧縮による音質の変化

不可逆圧縮は人の聴覚特性やマスキング効果を利用しながら必要最低限の情報をカ ットしていき、情報量(ファイルサイズ)を抑えていく方法である。ただし実際には データレートを低くするほど音質劣化が大きくなる。具体的には高域成分の欠落、PEAK波形のつぶれ、リニアリティ(直線性)の悪化、スルーレート(立ち上がり特性)の悪化などである。特に音楽信号成分には楽器の高調波成分が多分に含まれており、音質の劣化をより感じる要因にもなっている。

4)配信の方式

音楽配信で採用されている圧縮方式やビットレートは配信形態や配信会社によって様々である。また各圧縮方式によっても音質が異なる。例えば*ラフネス値を元にAACとMP3を比べると、MP3はビットレートがあがるにつれて素直にラフネス値が下がっていくのに対しAACでは周波数帯域によってはラフネス値がほとんど変わらないというデータもある。また最近では低ビットレート(48kbps)でもCD並の音質とうたわれるHE-AACという方式も着うたなどでは採用されている。

*(ラフネス値とは音質変化の定量的な判定値で非圧縮音源と圧縮音源の波形差を数値的に表したもの。)

5) 配信作業の流れ

コンテンツサーバにファイルを納品するまではいくつかの過程を経るが、配信会社 ごとに圧縮方式やビットレートが異なるため以外と手間のかかる作業である。

6)配信の今後について

今後は携帯電話のフィーチャーフォンからスマートフォンへの移行がキーワードに なる。

フィーチャーフォンでは携帯コアネットワーク内で有料配信を利用していたのがスマートフォンではIP網で「無料動画サイト」や「PC転送」が利用できるようになった。このため音楽を楽しむ割合は増えているが、有料配信を利用するユーザは減ってきている。

また日本でもクラウド音楽配信が始まってきており、有料配信の減少が懸念される。

7) 音楽制作の方向

音楽配信の期待できる今後の可能性としては高音質化による配信がある。

CDパッケージでは音のクオリティは44.1kHz16bitで固定されているが、配信の場合はそれ以上の高音質化も可能なため一定のユーザには需要はあるはず。

** 所見 **

今回の内容で以外だったのは着うたの転送レートが48kbpsだったということ。 (キャリアやエンコード方式によって少し異なるが)128kbpsより低い値は商業用には 使用されていないと思い込んでいたので少し驚きだった。

また気になったのは圧縮による音質の変化について最小可聴限特性応用による間引きでスルーレート(立ち上がり特性)が悪化するということ。特にビットレートが低くなる着うた音源の切り出し作業ではこの点を留意する必要があると思われる。

興味深かったのが圧縮による音質変化の定量的な判定値(ラフネス値)。

ビットレートが下がれば単純に音質が劣化すると思っていたがAACではその限りでは無いということ。圧縮方式によってかなり音質の変化に差があるということが実感できた。

今後の音楽配信の売り上げの可能性についてはやはりフューチャーフォンからスマートフォン移行への流れは止められないため、今後はユーザの利便性を向上させながら有料配信の収益を高音質化も含めどのように上げていくかが課題となるところ。

<2部> JASRAC 小島 芳夫 氏 「音楽配信の管理の現状」

- 1) デジタル・ネットワーク時代の音楽著作権
- 2) インタラクティブ配信の管理
- 3) 侵害対策
- 4) デジタル・ネットワーク時代に対応するインフラ構築



小島 芳夫 氏

1) デジタル・ネットワーク時代の音楽著作権

インターネットや携帯電話が普及し始めてからのデジタルコンテンツ配信事業は当初こそは伸びが順調だったもののその後はやや伸び悩みの様相を呈している。

初期のころは着メロビジネスがインタラクティブ配信の徴収額を爆発的に押し上げたが、それは事業者側とユーザ側の携帯ネットワーク間で市場が確立していたためで、現在のようにインターネットがメインの多種多様な配信形式では中々効果的な市場が確立できないのが現状。

今後はユーザ生成コンテンツ(SNS、ブログ、動画共有サイト、Wikipedia等)に対する管理方法や様々な配信形態に対するそれぞれの正当な対価等を探る必要がある。

2) インタラクティブ配信の管理

JASRACの各配信形式の規定(使用料の徴収額)は形式ごとにかなり細かく設定されており、また、インターネットラジオやIPTV、インターネットによるオンデマンド配信でそれぞれ著作隣接権者の権利やJASRACの取り扱いが異なっている。

携帯電話やインターネットが無かったテレビやラジオ放送のみの時代に比べて権利 関係も複雑化している。

音楽配信の形態についてはゲーム配信や電子出版、また最近ではアップルが始めているクラウドサービス等増え続けているため、管理していかねばならない。

3)侵害対策

楽曲の違法利用対策についてJASRACは独自の活動を行っており違法サイトやプロバイダへの削除通知や侵害差し止めなどだけでなく許諾を主体とした違法者から正規事業者の転換への促しや使用料の支払い、または関係事業者との協力など多角的・複合的な対策を行っている。

4) デジタル・ネットワーク時代に対応するインフラ構築

今後のJASRACのインフラ構築についてはFP(フィンガープリント)技術を活用したインフラをメインとする。FP技術とは音声(映像)の特徴のある波形などの情報 (FP) をデータベースに登録しておくことにより、放送やネットワーク上を流れる音声(映像)のFPと照合して楽曲を特定し、利用楽曲管理に活用するという技術方法。

FP技術は前述の違法利用サイトの特定にもすでに活用されており、今後、ネットワーク上ではGracenote、放送ではNTTデータ等のFPDB(Finger Print Data Base)サービスをベースにFP照合やISRC付加など相互に利用していく予定。

** 所見 **

普段あまり意識することの無い楽曲管理だが、ネットワーク時代になって一気に複雑化してきている様子が良くわかった。特に今後もユーザ生成コンテンツ等直接ユーザとかかわるようなコンテンツはユーザの立場も考慮しながら双方に効果的な市場を構築していくことが課題であると感じる。

またスマートフォンアプリ等でおなじみのFP技術に関しては十分に商用ベースで扱えるところまで進歩している。技術屋としては今後この技術がどのように発展していくかが興味あるところである。

2012年JAPRS新プロ・エンジニア研修会レポート

2月25日(土)、今年度は東放学園音響専門学校・渋谷校舎 3F3A1に於いて、専門学校委員会の主催により「2012年JAPRS新プロ・エンジニア研修会」が開催されました。

この研修会は、これから音楽スタジオ業界に就職を目指すJAPRS賛助会員専門学校1年生を対象とし、エンジニアという仕事について、また望まれる人材と仕事の現状を講義形式で学ぶ研修会で、今回が第12回目の開催となりました。

今回は参加予定者88名のところ84名が参加、(内訳は札幌3名、仙台12名、東京39名、 名古屋7名、大阪23名)エンジニアという職種に対する関心の高さが伺えました。



当日は、12:30に専門学校委員会担当者11名、事務局員3名が 東放学園音響専門学校・渋谷校舎に集合し、13:30からの参加者 受付に備え、準備を開始しました。

会場準備もスムーズに行われ、参加学生も着席し時間どおり 13:45より脇田 副委員長の司会のもと、研修会が開始されました。

講師の講演に先立ち、吉田専門学校委員会委員長よりJAPRS の活動内容、研修会の目的等が説明された後、以下の内容で各講師により講義が行われました。



吉田 保 委員長



目等 進 氏 (株)フリーダムスタジオ

- 1. 「レコーディングスタジオとは」 目等 進 氏 (株) フリーダムスタジオ
- 2. 「エンジニアの魅力と望まれる人材像」 吉田 保 委員長

3. 「現役アシスタントエンジニア特別コーナー

コーナー司会:脇田 貞二 副委員長

アシスタントエンジニア:

勝又 紀彦 氏 音響ハウス

専門学校ESPミュージカルアカデミー OB

徳永 輝氏 サウンドインスタジオ

キャットミュージックカレッジ専門学校 OB

秦 正憲 氏 サウンド・シティ

専門学校ESPエンタテインメント OB



4.「資格認定制度について」

井良沢 元治 副委員長

5. 「専門学校委員会からのインフォメーション」

脇田 貞二 副委員長

今回も東京地区以外では、札幌、仙台、名古屋、大阪からの参加者がありました。 7月と9月に実施される技術認定試験へのチャレンジも含め、この研修会に参加した学生達が1人でも多く、スタジオでアシスタントエンジニアとしてスタートされることを願っています。



ご協力いただいた講師の皆様、現役アシスタントエンジニアの方々およびスタッフ の方々に心より御礼申し上げます。

専門学校委員会 大阪地区レコーディングセミナー報告

ビジュアルアーツ専門学校 大阪 塚本 武

去る 2 月18日(土)~ 2 月19日(月)に、大阪地区のJAPRS賛助会員に加盟している専門学校 3 校合同で、レコーディングセミナーが開催されました。

参加校はキャットミュージックカレッジ専門学校(以下CAT)、専門学校ESPエンタテインメント(以下ESP)、ビジュアルアーツ専門学校大阪(以下VAO)の3校で、この3校での合同開催は今年で5回目となりました。セミナーでは特別講師として吉田保氏をお招きし、スタジオでのマイクセッティング、レコーディングからミックスダウンまで、録音制作の過程を、学生の目の前で作業しながらレクチャーをしていただきました。

今回のセミナースケジュールは1日目にVAOでのレコーディングセミナーを午前の部、午後の部と実施し、2日目は午前にESPでのミックスダウンセミナー、午後はCATに移動してのミックスダウンセミナーとなりました。教材楽曲は午前の部がWHITE SNAKEの「IS THIS LOVE」、午後の部がTOTOの「Girl Goodbye」です。演奏はESPの手配による講師の先生方に、午前と午後の2回のセミナーで異なる曲を演奏していただきました。

1日目 レコーディングセミナー午前の部

3校の学生がVAO 101スタジオに集合し、10時からセミナーを開始しました。挨拶もそこそこに、全員がスタジオに移動し、マイクセッティングです。マイクや楽器の特徴などを考慮したセッティングのポイントを吉田氏自らレクチャーを交えて作業を見せて頂き、学生達はメモを取りながら真剣な眼差しで聞き入っていました。ドラム、ギター、ベースやKBのDIそれぞれセッティングしていきます。ギターはスピーカキャビネットをボーカルブースに入れてのマイク録音です。そのた



めVoはマシンルームを使いました。また、今回はAPfへのマイクを3本セットしましたが、これは翌日のミックスダウンで使い方の説明がありました。

マイキングが終わるとコントロールルームに戻り、レコーディングセッションの開始です。コンソールはSSLのAW948です。HAレベルの設定の仕方やPro Toolsへの送りレベルの設定、演奏者へのモニターレベルの調整など操作しながら、注意事項をレクチャーしていただきました。レコーディングではドラム、ベース、ギター、キーボードの4リズムと仮ボーカルの同時録音を行い、その後、KB、APf、Gtのダビング、ボーカル、コーラスと作業が進行し12時40分頃レコーディングが終了しました。その後、質問コーナーを経て13:00に午前の部は終了しました。

午後の部は14:00から開始し、午前の部と同様にマイクセッティングの説明から始まりレコーディングセッションを行いました。学生達はレコーディング中も吉田さんを取り囲んだ状態で、操作の一つ一つを間近に見、また、録音中はどんな音が出てい

るのか真剣な顔で聞いていました。

2日目 ミックスダウンセミナー

午前の部はESPのスタジオでWHITE SNAKEの「IS THIS LOVE」のミックスダウンです。コンソールはICONシステムです。始めにベースの音決めとVUメーターによるレベル設定から始まりました。このレベルが最終的なミックスレベルの基準になるので大事ですと吉田さんからの説明がありました。ミックスダウンでは設定を変えながら音を探すという操作ではなく、吉田さんの頭の中にすでに響いている音になるよ



う機器やプラグインを操作をしていきます。 この素材音だったら、どうするのかが既に決 定して、それぞれのプラグインを設定してい きますので、とても作業が早く進みます。 Pro Tools のモニターではそれぞれの設定が 目に見えますので学生達にも分かりやすかっ たと思いますが、Comp.やEQでは必要最低限 のみの設定でしたし、ディレイやリバーブも 意外と深く掛けられていますが、音が遠くなってしまうことはありませんので、学生達は がいていました。いったんミックスが完成し

たところで、モニター音量についてや、トラックにどんな処理をしたかを説明して頂きました。また、ミックスしたデータがマスタリングを経てCDとなるので、マスタリングとの関連も説明していただきました。

2日目午後の部はCATのスタジオでTOTOの「Girl Goodbye」のミックスダウンです。 ESPと同様にコンソールはICONシステムです。午前と同様にミックスはとても早く進んで行きました。必要最小限の処理、奇をてらった処理はありません。吉田さんが常にシンプルに作業できるようにと言っていますが、後の作業を考えた上で、最初にやっておく作業がとても重要だということが学生達に伝わったと思います。



このセミナーはPro Toolsを共通機器として行っているので、セミナー終了後は各校に今回のレコーディング素材からミックス処理のノウハウをデータとして持ち帰り、学生たちの教材で使えるので良いと思いました。以前はEQなどの設定をメモしましたが、各学校でのコンソールやその他の機器が異なるので再現出来ませんでした。

また、ミキシングはやはりレベルバランスがとても重要だということ。極端なダイナミクス処理やEQ処理をしなくても、しっかり音楽としてのバランス、音質としてのバランスが出来あがる。また、ミュージシャンが発生させる音を大事に扱うという、録音の本質的な部分でのセミナーになったと思います。

今後も、このようなセミナーを3校で協力して合同開催できるよう、意見交換しながら準備していきたいと考えております。これからも関西地区の学生のためJAPRSとしてご協力頂けます様、よろしくお願い致します。

会 員 動 向

1. 会員数(平成24年5月1日現在)

- 2. 退会
 - ①正会員
 - (株) 一口坂スタジオ

平成24年3月31日

- 3. その他
 - ○移転

日本シンセサイザー・プログラマー協会

〒160-0023 新宿区西新宿 6-12-30 芸能花伝舎 3F

TEL: 03-6302-0684 FAX: 03-6302-0685

○移転

ソニービジネスソリューション株式会社

〒108-0075 港区港南1-7-1

TEL: 03-6748-3037

○移転

渡辺音楽出版株式会社

平成24年3月26日より

〒150-0031 渋谷区桜ヶ丘12-10 渋谷インフォスアネックスビル 7 F

TEI: 03-5428-3801(代表) FAX: 03-5428-3876

○移転

AES日本支部

〒164-0013 東京都中野区弥生町 2-19-9

TEL: 03-5358-7320 FAX: 03-5358-7328 (従来と同一、変更なし)

○移転

財団法人 日本音楽産業·文化振興財団

〒105-0061 東京都港区虎ノ門 2-2-5

TEL: 03-3560-9881 FAX: 03-3560-9882

- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本ポストプロダクション協会
 - (新) 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 (平成24年4月1日付)
- ○移転

株式会社 イーブイ アイ オーディオ ジャパン 平成24年3月12日より

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-13-1 ボッシュビル赤坂 9 階

TEL: 03-5485-4427 FAX: 03-3507-4422

- ○移行
 - (旧) 社団法人 音楽電子事業協会
 - (新) 一般社団法人 音楽電子事業協会 (平成24年4月1日付) 会長 岡部 比呂男 理事長 浅野 健太郎

- ○移行
 - (旧) 社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会
 - (新)一般社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会 (平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本映画テレビ技術協会
 - (新) 一般社団法人 日本映画テレビ技術協会(平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本アド・コンテンツ制作社連盟
 - (新)一般社団法人 日本アド・コンテンツ制作社連盟(平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本芸能実演家団体協議会
 - (新) 公益社団法人 日本芸能実演家団体協議会(平成24年3月22日付)
- ○人事異動

ビクターエンタテインメント株式会社

高田 英男

サウンド・プロデューサー (委託)

秋元 秀之

ビクタースタジオ長 兼エンジニアグループゼネナルマネージャー

兼FLAIR長 兼営業グループゼネラルマネージャー

鈴木 順三

ビクタースタジオデジタルソリューショングループゼネラルマネージャー

- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本音楽事業者協会
 - (新)一般社団法人 日本音楽事業者協会(平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会
 - (新)一般社団法人 コンピュータソフトウェア著作権協会(平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 著作権情報センター
 - (新) 公益社団法人 著作権情報センター (平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本演奏連盟
 - (新)公益社団法人 日本演奏連盟(平成24年4月1日付)
- ○移行
 - (旧) 社団法人 日本民間放送連盟
 - (新) 一般社団法人 日本民間放送連盟(平成24年4月1日付)
- ○理事長変更

社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟

- (旧) 中尾 幸男
- (新) 倉内 均((株)アマゾンラテルナ 代表取締役社長)

♪ 編集後記♪

春よ来い♪早く来い♪!!!春夏秋冬・・・あぁ冬の次は春なんだ。春の次は夏なんだ。季節は巡りてまた春が来て君は綺麗になった。

うさぎ

この会報を編集しているタイミングは、隣国の人工衛星?がいつ打上げられるかという時でした。昨年からの大震災、原発関連では、原発再稼働の安全基準問題等、考え始めると、酒の量が増えるばかりです。

hair ken short

昨年の猛暑にも参りましたが、今年はどうなるのでしょうか。オリンピックの燃える 熱さは良いのですが、暑い夏は苦手です。

yakiton

春が来て、桜が終わり、楽しみにしているバラの季節です。デジカメでの撮影も毎回 試行錯誤で、なかなか難しいです。

mm

委員長 広岡 淳利(音響ハウス)

委 員 佐藤 賢一(事務局)

" 山本 薫 (")

" 伊東 真奈美 (")

【発行人】 会 長 内 沼 映 二 【発 行】 2012年(平成24年) 5月

【発行所】 社団法人 日本音楽スタジオ協会

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号 モナーク大久保3F

TEL. 03-3200-3650 FAX. 03-3200-3660

http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp

【編集】運営委員会 【印刷所】株式会社研恒社

